

# 外国語（英語）教育におけるデジタル教科書の教育効果の検証

## 背景

2021年「デジタル教科書の今後の在り方に関する検討会議」では、機器の整備や健康面への影響の配慮と共に「デジタル教科書のメリットを最大限発揮するためには、教師のデジタル教科書を含むICT活用指導力の向上を図ることが必要不可欠である」として学校内外で行われる研修等を通じて、継続してこうした教師の指導力の向上や底上げを図ることを求めている。

すなわち、デジタル教科書を指導に生かせる教師の育成が指摘されている。

## 研究成果

- 紙の教科書、デジタル副教材等と併用したデジタル教科書の利点
- デジタル教科書・教材を活用した際の英語コミュニケーションの評価
- 異校種・国際交流等と連携した双方遠隔外国語学習でのデジタル教材の活用法
- 附属函館小・中の研究テーマを具現化するツールとしてのデジタル教科書の活用法と評価
- 函館市教育行政執行方針にある一人一台の学習用端末を最大限活用し、地域の教育資源を活用した支援を行うことによる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に関わる実践事例の提供

## 研究目的

主に外国語（英語）のデジタル教科書・教材を活用した教育実践を展開し、事例を収集するとともに、その教育的効果を検証することで、子ども一人一人の資質・能力を一層確実に育成できる個別最適化された、協働的な学びを実現する。

また、デジタル教科書・教材を活用する方法や具体事例の提示により、教師の指導力の向上や、各教科の授業内容の改善に資する。

## 研究課題

- 紙の教科書や国語科・算数科等での活用状況等との比較検討を行いながら、デジタル教科書を活用した指導が、外国語（英語）のコミュニケーション力育成に及ぼす教育効果と課題点を明らかにする。
- デジタル教科書の活用が、外国語（英語）コミュニケーションの内容（聞くこと、読むこと、話すこと「やり取り」、話すこと「発表」）の向上に及ぼす影響を整理する。
- 実践的成果と学術的成果の双方が還流し、教育現場の課題解決や教員養成機能の充実を図る。

## 研究計画

2022(1年目)	2023(2年目)	2024(3年目)	2025(4年目)	2026(5年目)	2027(6年目)
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

- ① デジタル教科書活用の先行事例の検討
- ② デジタル教科書の言語活動内容の分析
- ③ デジタル教科書を活用した授業実践事例の収集と蓄積

- ④ 大学・教育現場と連携した実践事例開発
- ⑤ 開発手順・事例の検証と評価規準作成
- ⑥ 附属小・中学校を中心とした教育効果検証

- ⑦ 経過報告の学会発表準備・発表実施及び学会論文作成・投稿
- ⑧ デジタル教材の活用事例集作成・配布と研究会の開催

## 研究実施体制

### ■代表

石森広美准教授（函館校）

### ■分担者

石井洋准教授（函館校）

杉本任士教授（院函館校）

内藤一志教授（函館校）

山口好和准教授（函館校）

### ■協力者

永澤篤教授（院函館校・附属小）

中村吉秀教授（院函館校・附属中）

鈴木淳学校臨床教授

附属函館小・中学校の教員

道南地区の教育関連組織の関係者